

小林恭子の ロンドン発 グローバル随想

第16回

顔が見えないからこそ 伝わること



イラスト・題字：長峯亜里

バーチャルなコミュニケーション

新型コロナウイルスの感染拡大を阻止するため、英国では今、不要不急の外出を禁止する「ロックダウン（都市封鎖）」体制が敷かれている。「家に留まる（Stay at home）」ことが奨励され、外出が許されるのは医療サービスを受ける、食料を買う、金融機関を利用するなどの場合や戸外での運動のためのみだ。店舗内に入る時や公共交通機関の利用時はマスク着用が義務化され、正当な理由なく着用していない場合、罰金を科される。

直接顔を合わせて「集う」ことが禁止されてしまったため、英国に住む人が頼らざるを得なくなったのがスマートフォンやタブレット、パソコン画面を通してのバーチャルなコミュニケーションだ。ネットフリックスやアマゾンなどが提供する動画コンテンツのストリーミング・サービスも人気である。

高齢者も「Zoom」に慣れた？

オンライン会議アプリ「Zoom」の利用者も増えている。筆者の隣人で1人暮らしのジューンさん。80代半ばの熱心なキリスト教信者で、毎週、近くの教会に出かけてほかの信者たちと交流していた。ところがコロナが発生し、教会

は感染防止のため「自宅で祈る」ことを信者たちに推奨、毎週日曜のミサをZoomを使って行うようになった。ジューンさんは自宅のパソコンをこれまではもっぱらメールのやり取りだけで利用してきたが、ほかの信者の助けを借りてZoomアプリを入れた。日曜日のミサには、欠かさずオンライン出席しているという。「Zoomではみんなの顔が見えるから、寂しくない」と筆者に語る。

筆者の家人（77歳）は地元市役所の「住民と話そう」というイベントで初Zoom体験をした。開催前に市民が市議に聞きたい質問を送っておき、イベントの中で市議が答えるかたちをとる。市役所の担当者から「あなたの質問が選ばれました」というメールをもらったというので、筆者がZoomアプリを家人のパソコンにインストールした。

当日、早めに夕食をすませ、パソコンを立ち上げた。午後8時開催に向けて待っている間に緊張感でいっぱいとなった家人は居間のソファーに横たわり、「申し込まなければよかった」と後悔している様子。イベントが始まり、家人が質問をする番になった。何とか質問を終え、市議の答えを真剣に聞いていた。1時間半ほどのイベントが終わると、ぐったりした家人はベッドで寝込んでしまった。